

Who Was the Chief Executive of the Federal Reserve Bank, Chairman of the Board of Directors or Governor before the Great Depression?

明治大学 須藤 功

ミルトン・フリードマンらは、連邦準備制度がその権限をフルに行使していれば大恐慌は回避できたとして、同政策に携わった主だった人々（ニューヨーク連銀総裁ストロングやハリソン、連邦準備局メンバーなど）が果たした、また非集権的組織構造が抱えた、役割や問題点を強調した。しかし、これら主要人物（特に連銀総裁ら）の政策判断は各連銀「取締役会」の意思決定に影響を受けたはずだが、史料上の制約もあり、肝心の取締役の選出方法や活動は総裁との関係を含めて十分に明らかにされていない。2010年成立の「ドッド・フランク金融制度改革法」は、地区連邦準備銀行の最高経営責任者たる総裁はクラス B およびクラス C 取締役によって選出されると規定し、唯一の株主たる連邦準備制度加盟銀行の代表者（クラス A 取締役）を選考主体から除外した（Title XI, Sec. 1107）。これは連邦準備政策に対するウォールストリートの影響力の排除を意図したものであるが、地区連銀の取締役会および総裁が果たしてきた役割について改めて関心を喚起することになった。本報告は、収集可能な限りの史料に依拠して、地区連銀取締役の選出方法とその変遷を詳らかにし、また取締役会、同執行委員会、総裁が地区連銀のガバナンスにどのように関与し、大恐慌を契機にどのような変更を迫られたのかを検討する。今次の制度改革でなぜ加盟銀行選出取締役が総裁人事への関与を否定されざるを得なかったのか、また、なぜこれまで地区連銀は連邦準備制度理事会の支店として再編されなかったのか、本報告はこれらの問題についても何らかの示唆を提供したいと思っている。

[参考文献]

須藤功『戦後アメリカ通貨金融政策の形成—ニューディールから「アコード」へ』名古屋大学出版会、2008年。

Milton Friedman and Anna J. Schwartz, *The Great Contraction 1929-1933*, Princeton: Princeton University Press, 2008 [『大収縮 1929-1933 「米国金融史」第7章』久保恵美子訳、日経 BP 社、2009年]。